Outline of Study Area: Sarawak, Malaysia

Sarawak, as main research area

-Multi ethnic groups: 27

-Population: 2 ,070,000

-Population Density: 17 persons/km^2

-The Iban: 30%, swidden agriculture

-The Chinese: 30% , living in urban areas

-Rapid growth of urban centers

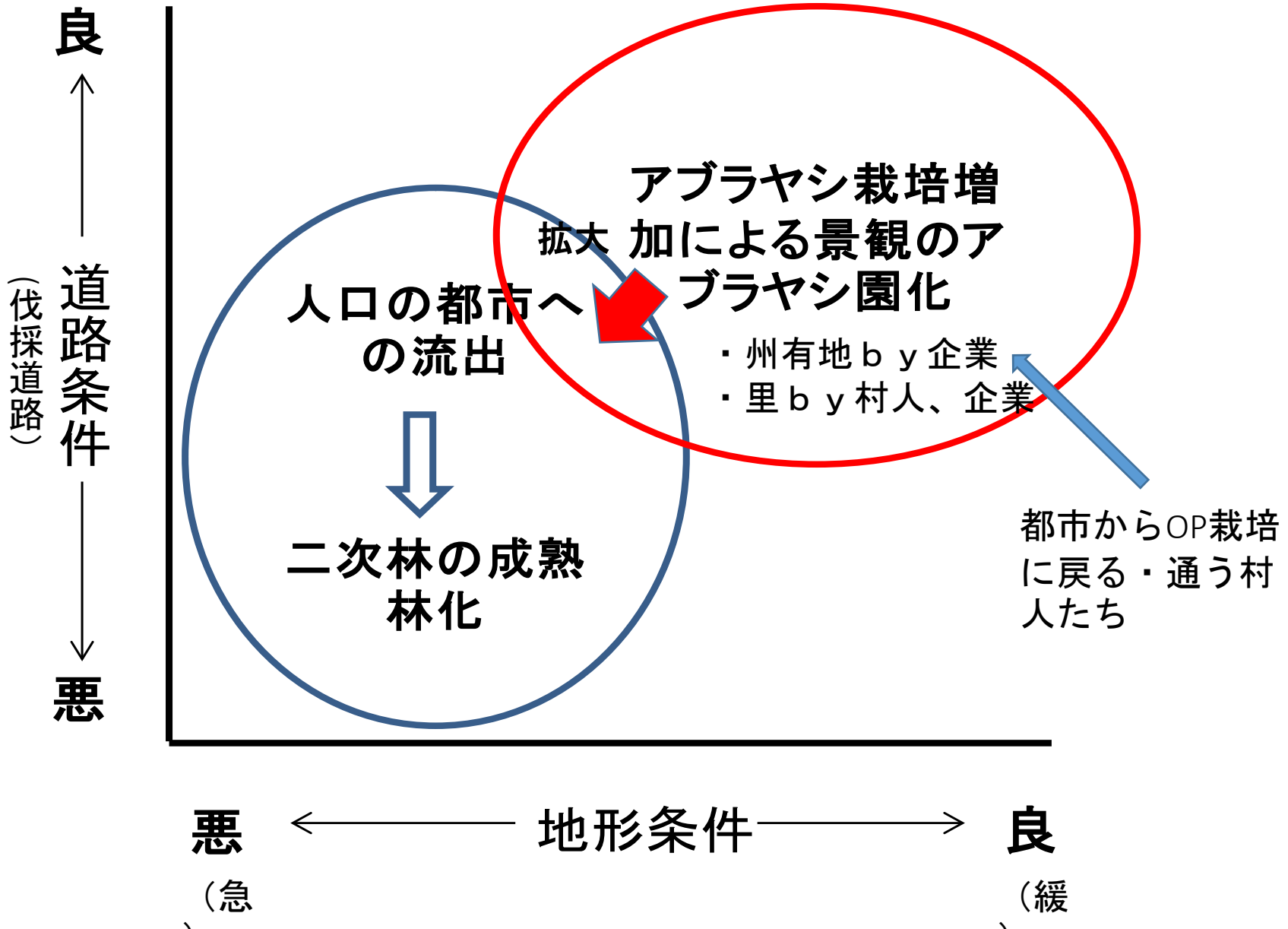
- The majority of the indigenous people engage in swidden agriculture. There are also hunter-gatherers.

中・上流域ロングハウスの空き室状況

- Lg Atip : 全88戸中、空き室62戸、空戸率70%
- Lg Palai： 全47戸中、空き室9戸(19%)、都市は7(15%)。
- Lg Anap： 全47中、空き室16戸(34%)、都市は６戸(１３%)
- Lg Pulutan: 全20、都市住み5、道路10、キャンプ4、他村1
- Lg Julan:　全8、3戸住む、5戸空き室(都市4、道路1)
- Lg Apu:全35、空き室12(37%)、都市4、道6、キャンプ2、他1
- Lg Pulutan(Miri) :全92戸、空き室30(都市15、キャンプ15)
- Lg Nakan: 全30戸、空き室11戸(すべてミリ)
- Lg Moh: 全112戸、空き室71(63%)ほとんどミリ(聞き取り)

2-3割の空き室があるのは普通。多ければ７，８割空き室。

中・上流域における今後の土地利用



サラワクと日・台湾・韓との比較

日・台・韓と共通点：

- 経済成長とともに都市の発展、そして農村住民の都市への移住
- 道路の影響が大きい。（道路がない不便さから都市へ流出。道路建設により都市へ流出。）
- 高学歴を求めて流出（高学歴になることにより都市住みに）

相違点：

- 先住民の存在(日・韓にはほぼいない)⇒台湾では先住民が都市へ出ていくのに精神的・社会的障壁あり。サラワクは障壁小さい。
- (とくに日本との違い)サラワクは農村地域のアブラヤシなど第1次産品生産さかん。ダムなどの大規模開発もみられる。(韓は開発転用期待まだ高い。台湾は大規模野菜栽培などみられる)
- サラワク農山村部には、多くのインドネシア人労働者が流入。(農村地域の産業維持とサラワク人雇用喪失の両側面有り)
- 焼畑的土地利用⇒放置されても問題なし。ただし所有者不明確問題あり

(詳しくは、『土地所有権の空洞化』飯國芳明ら編の第13章　ナカニシヤ出版参照)